

宮城県の景況判断

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

概況

生産は足元弱含んでいる。需要面の動きをみると、公共投資は震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は一部で上振れしているが、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

今月のポイント

平成から令和へと時代を跨ぐ超大型連休と「改元ムード」が消費マインドを相応に押し上げ、レジャー関連を中心に個人消費を浮揚させましたが、消費増税前の駆け込み需要はまだ勢いがみられず、本番は夏場商戦以降に持ち越されたように見受けられます。一方、生産は弱含んでいるものの、海外情勢を背景とした需要の先送りに伴う調整色が強く、県内景気を大きく下押しする状況には至っていません。

(参考) 県内景況判断の推移

	2019年5月	6月	7月
総括判断	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)
生産	概ね横ばい圏内で推移している	<u>足元弱含んでいる</u>	足元弱含んでいる
個人消費	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている
住宅投資	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している
公共投資	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している
雇用情勢	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2018年7~9月) <u>持ち直しの動きが鈍化している</u>	(10~12月) <u>持ち直しの動きが鈍化している</u>	(2019年1~3月) <u>総じて弱めの動きとなっている</u>

注) 下線は前月(回)からの変更箇所